

# 読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

井原市の企業が特産のデニムで手作りする造花「藍バラ」が注目を集めています。記事を読み、質問に答えましょう。

## デニムのバラ「藍」を込め

井原市の企業が特産のデニムで手作りする造花「藍バラ」が、注目を集めている。花びらの開き方や色落ちの具合など1点ずつ異なる表情が特徴。倉敷市美観地区の直営店で販売するほか、宿泊施設や結婚式の飾りにも用途を広げる。

カシユアル衣料製造の青木被服（井原市西江原町）が製造。長さ45センチで、針金を除く材料は全て同市産のデニムだ。花びら一枚一枚の立体的な形状は、ズボンやジャケット用の厚手生地を裁断する際に生じる反り返りで表現。葉の光沢感は、シャツに使ったややかな薄手生地を出している。

人気は藍一色の「インディゴ」と花びら部分を脱色した「ミックスマスブルー」の2色。花びらが赤や白の商品もある。



1点ずつ異なる色合いなどが魅力の藍バラ

## 井原の企業 形、色合い 一点もの

昨年4月にインディゴとミックスマスブルーを発売すると、土産や贈り物としてすぐ品薄になり増産。7月に白、12月に赤を追加した。結婚式の飾りにと岡山県内外の企業の引き合いも増え、今年は藍バラを用いた空間デザイン事業にも着手。第1弾として県内のグランピング施設を手がけ、今夏に完成するという。

青木俊樹専務は「一輪挿しでも存在感が際立ち、デニム特有の経年変化も楽しめる」と言い、2023年度は6千本と22年度（見込み）の1.5倍の販売を目指す。

（鈴木省吾）

3月19日付山陽新聞、1面

**Q1** 井原市の企業が特産のデニムで作る「藍バラ」は、1点ずつ異なっているのが特徴です。どのような点が異なっているか、第1段落から書き出しましょう。

**Q3** 皆さんの住んでいる地域で有名な特産物の新しい使い方を考えてみましょう。

**Q2** 「藍バラ」は、土産や贈り物として人気です。そのほか、どのように用途を広げていますか。第1段落に注目です。

過去の問題は  
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。